

笠間市社協 宍戸支部だより

第133号

令和5年6月15日発行

発行 笠間市社協宍戸支部
雨谷 高市
編集 宍戸支部広報委員会
印刷 大塩企画

助け合う 心はいつも 思いやり 一福祉標語入選作品から一



宍戸支部代議員会の様子

●支部長あいさつ●

実態を直視しないと

最近驚くべきニュースに接した。アメリカ発である。同国では一日あたり五百人が貧困を原因として死亡しており、死因の第四位にランクされているというのである。また、全米で三千八百万人が公式の貧困ラインを下回る生活をしており、その数はオーストラリアの人口よりも多いとしている。

翻って我が国はどうか。五月一九日から広島においてG7が開催されるが、そのG7加盟国で日本はアメリカに次いでワースト二位となっているらしい。しかも、その状況は年々悪化の傾向にあり、アメリカを抜いてワースト一位になる日も遠からずという状況である。

問題は、子どもの貧困率だ。近年の統計では、実に七人に一人（一三・五％）がそういう状態だとのこと。未来を担う子供たちがそのような境遇に置かれているという実態は、我が国にとってそれこそ由々しき事態なのではないか。毎日子供たちの元気で明るい笑顔に接していると、その現実を見極めることができないが、おそらく、この地域にも静かだが確実に拡大してきているのだろう。

その意味で、今後の社協事業の視点もその方向への振り分けが必要だと考えるのである。

さて、日本では二十年以上初任給が上がらない状況が続いていると言われている。今や、初任給は、アメリカでは二倍、スイスでは三倍になっているということだ。規制緩和、グローバル化の名の下に、人への配慮を疎かにしてきたつげが回ってきているのかもしれない。それが、高齢者の孤立、賃金格差、こどもの貧困問題等に拍車をかけていると思える。

今こそが、日本がこれから向かうとしていく方向がこれでいいのか、ここで立ち止まって考え直す時なのであろう。かつて、今は亡き日本の首相が「日本を取り戻す。」と声高に叫んでいたが、これこそが全国民与えられた命題なのではないだろうか。

令和五年四月二六日記

笠間市社協、戸支部は、笠間市で唯一活動の拠点である支部会館を有しています。当支部はその利便性を十分に生かし、青少年健全育成委員会、女性部、こぶしの会、広報委員会などの専門委員会が中核となり、子どもから高齢者まで幅広い事業を推し進めて参りました。

今後さらに、組織を充実し各関係機関、各種団体との連携を図り、六戸地区の皆様の協力を得ながら、地域に密着した事業を推進して参ります。



4/15 代議員会



4/20 運営委員会

(支部役員)

支部長
副支部長

同

會計

書記

監事

同

同

顧問

同

雨谷 小菅

前嶋

関

米川

横倉

柴沼

和田

根本

伊東

高市 栄子

晃司

令子

雄一

一男

茂

博美

芳雄

勝男

旧陣屋2
中町

旧陣屋
1

橋爪
2

旧陣屋
2

大古山

上町

松山团地

大田町
2

中町

施 策

- 1 地域住民とともに社協活動への理解を深め、会員の確保に努める。
- 2 区長会、民生委員・児童委員協議会及び高齢者クラブとの連携を図る。
- 3 笠間市社協との連携を強化し、他支部との交流を進める。
- 4 福祉推進委員の資質向上に資する研修会及び視察研修を実施する。
- 5 児童福祉事業の充実を図る。
 - (1) 小学校との連携を密にした「三世代交流事業」への協力
 - (2) 子ども会、スポーツ少年団活動等への援助
 - (3) 地域の教育環境整備活動に協力
- 6 災害等発生時における地域への貢献に努める。
- 7 社協宍戸支部会館を会場とする「介護予防の運動・体操教室」に協力する。
- 8 各専門委員会の事業
 - (1) 青少年健全育成委員会
 - (ア) 青少年健全育成及び安心して住める地域を目指す「地区懇談会」の開催
 - (イ) 「小学生夏休みわくわく星座観察会」等を実施
 - (ウ) 宍戸小学校に対するサポート（そろばん学習）
 - (エ) 「宍戸小学校150周年記念事業」への協力
 - (2) 女性部
 - (ア) 高齢者を対象とした毎月1回の「配食サービス」を実施
 - (イ) 福祉意識高揚を目指した「福祉バザー」の開催
 - (ウ) 女性部員の特性を生かした「手づくり会」の実施
 - (エ) 資質向上に資する研修会及び視察研修の実施
 - (オ) 宍戸小学校に対するサポート（ミシン学習）
 - (3) こぶしの会
 - (ア) 「配食サービス」時、高齢者との交流活動の実施
 - (イ) 高齢者によるグラウンドゴルフ大会（年2回、宍戸地区高齢者クラブとの共催）の企画・運営
 - (ウ) 高齢者を対象とした市外研修会（自然観察会）の企画・運営
 - (4) 広報委員会
 - (ア) 「宍戸支部だより」第133号～第134号の発行
 - (イ) 研修会及び視察研修への積極的参加
 - (ウ) 広報関係諸団体との交流促進
 - (エ) コミュニティボードの企画・運営、維持・管理

令和4年度決算報告 R4.4.1~R5.3.31

収入の部 (単位：円)

項 目	予算額	決算額	増 △減	付 記
繰越金	318,161	318,161	0	前年度繰越金
還元金	880,000	882,000	2,000	会員会費還元金（会員会費助成額）
助成金	163,000	163,200	200	福祉コミュニティ助成金 50,000 広報助成金 88,200 宍戸小 PTA 助成金 25,000
事業収入	400,000	519,940	119,940	女性部手づくり会収益、福祉バザー収益（宍戸小・ふるさとまつり・冬の陣）、配食個人負担金
寄付金	10,000	15,000	5,000	旧陣屋「冬の陣」から
雑収入	0	2,803	2,803	利子、保険の戻り
合 計	1,771,161	1,901,104	129,943	

支出の部 (単位：円)

項 目		予算額	決算額	増 △減	付 記
会議費		15,000	9,248	△5,752	運営委員会、総会資料作り、会計監査他
事務費		15,000	12,600	△2,400	封筒 コピー用紙 文具代
事業費		1,350,000	1,155,064	△194,936	
内 訳	青少年育成費	120,000	47,978	△72,022	地区懇談会2地区、戸戸小星座観察会、道路里親戸戸
	女性部活動費	100,000	101,615	1,615	手づくり会費、ふるさとまつりバザー経費他
	こぶしの会活動費	70,000	70,000	0	
	広報紙発行費	200,000	190,360	△9,640	支部だより2回分他 活動費
	児童育成費	50,000	50,000	0	笠間市こども会育成連合会戸戸小支部活動
	視察研修費	75,000	50,000	△25,000	自然観察会・女性部研修へ助成
	戸戸小助成費	80,000	80,000	0	戸戸小運動会祝金、ふれあいフェスタ 2022 祝金
	研修会参加補助費	5,000	500	△4,500	広報研修費
	在宅福祉費	330,000	319,518	△10,482	配食 12 回分（米代、お弁当容器代）
	高齢者補助費	50,000	50,000	0	高齢者クラブ
	区長会活動助成費	50,000	50,000	0	戸戸小学区区長会へ
高齢者助成費	150,000	39,594	△110,406	グラウンドゴルフ 1 回分、（6 月は雨で中止）	
防災対策費	20,000	6,355	△13,645	缶詰等	
備品購入費	50,000	99,144	49,144	会議用テーブル 2 台分 湯沸し器	
需用費		220,000	106,459	△113,541	電話・ガス・会館保険代、右所用品代等
雑 費		35,000	23,880	△11,120	コピー機トナーカートリッジ代
連絡調整費		15,000	2,000	△13,000	各事業実施へ向けての連絡経費
予備費		121,161	55,558	△65,603	ブラインド代（1基分）、外灯修理代等
合 計		1,771,161	1,364,809	△406,352	

収入合計 1,901,104 円－支出合計 1,364,809 円＝残金 536,295 円 次年度へ繰り越し

令和5年度 予算書 R5.4.1~R6.3.31

収入の部 (単位：円)

項 目	本年度予算額	前年度予算額	増 △減	付 記
繰越金	536,295	318,161	218,134	前年度繰越金
還元金	880,000	880,000	0	会員会費還元金（会員会費助成額）
助成金	163,000	163,000	0	福祉コミュニティ助成金 50,000 広報助成金 88,000 矢戸小 PTA 助成金 25,000
事業収入	400,000	400,000	0	福祉バザー収益金、女性部手づくり収益金 配食個人負担金
寄付金	10,000	10,000	0	地域からの寄付金
雑収入	0	0	0	利子他
合 計	1,989,295	1,771,161	218,134	

支出の部 (単位：円)

項 目		本年度予算額	前年度額	増 △減	付 記
会議費		15,000	15,000	0	代議員会他
事務費		15,000	15,000	0	封筒 コピー用紙 文具代等
事業費		1,350,000	1,350,000	0	
内 訳	青少年育成費	120,000	120,000	0	地区懇談会、道路里親戸助成金他
	女 性 部 活 動 費	100,000	100,000	0	手づくり会、バザーへの助成金他
	こぶしの会活動費	70,000	70,000	0	
	広報紙発行費	200,000	200,000	0	支部だより 2 回分、活動費
	児童育成費	50,000	50,000	0	笠子連戸小支部活動
	視察研修費	75,000	75,000	0	3 回実施分
	穴戸小助成費	80,000	80,000	0	穴戸小運動会祝金、穴戸小 150 周年祝金
	研修会参加補助費	5,000	5,000	0	
	在宅福祉費	350,000	330,000	20,000	配食 12 回分（米代、弁当箱容器代他）
	高齢者補助費	50,000	50,000	0	高齢者クラブ
	区長会活動助成費	50,000	50,000	0	穴戸地区区長会
	高齢者助成費	100,000	150,000	△50,000	グラウンドゴルフ 2 回
	防災対策費	20,000	20,000	0	非常食缶詰等
備品購入費	80,000	50,000	30,000		
需用費		220,000	220,000	0	電話代、ガス代、会館修繕代他
雑 費		40,000	35,000	5,000	コピー機カートリッジ代
連絡調整費		15,000	15,000	0	各事業実施へ向けての連絡経費
予備費		334,295	121,161	213,134	会館内の修理他
合 計		1,989,295	1,771,161	218,134	

（支部委員）
区長

// // // // // // // // // // // // //

綿 前成石 山江青江島鈴星高船渡
引 嶋田川 中幡木田田木野輪橋辺

義男 晃司 德馨 一義 寿浩 和雄 秀夫 昭徳 範登 孝一 正之

上町
中町
下町
橋爪1
橋爪2
矢野下上郷
大古山
ベリオ・コリナ会
南小泉1
南小泉2
南小泉3
旧陣屋1
旧陣屋2
（副支部長）
旧陣屋2

[illegible]

副委員長	細田 星山 山本 陣屋 3
部長 (女性部)	上沼 みどり
副部長	青木 恵子
〃	田口 ひろ子
〃	山本 信子
〃	塩下 サカ江
〃	川俣 敏子
監査 (こぶしの会)	神野 静江
委員長	羽生 力
副委員長	山中 一義
(広報委員会)	松山 南団地 南小泉 1
委員長	安達 正男
副委員長	小川 福子
	旧陣屋 1
	旧陣屋 1
	橋爪 2
	大田 町 2
	旧陣屋 3
	旧陣屋 1
	橋爪 2
	中町 (会計)

(民生・児童委員協議会)

|| || || || || || || || || || || ||

小菅 栄子	中町	大根 法子	矢野下上郷	角田 行男	南小泉 1	米川 容子	旧陣屋 2	米川 美和	旧陣屋 3	仲野 よし子	太田町 1	村上 元子	太田町 2	磯部 佐智恵	松山団地 2	中里 眞理子	松山団地 3	岩田 幸雄	八幡下	市毛 正明	旧陣屋 1	海老澤 佐賀恵	松山団地 2	(主任児童委員)	(主任児童委員)
-------	----	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	--------	-------	-------	-------	--------	--------	--------	--------	-------	-----	-------	-------	---------	--------	----------	----------

女性部視察研修会

水戸城址及び弘道館付近の散策

去る、二月一日及び三月三日に「女性部視察研修会」が行われました。参加者はそれぞれ19名と20名計39名でした。両日とも、弘道館の見学と復元された大手門付近の散策、昼食は買い物兼ねての那珂湊港に面する森田水産レストランで美味しいエビフライ定食や海鮮丼というメニューでした。身も心も十分に満たされました。

弘道館は水戸藩第九代藩主である徳川斉昭公が藩校弘道館の建設と偕楽園の造成を同時に行い、弘道館は総合教育機関として文武両道、偕楽園は修業の心身を休める保養の場として機能させ、「一張一弛」という言葉のとおり、一生懸命勉強して休む時はゆっくり休むというメリハリを大切にしました。

正門には水戸藩の最後の激戦の跡（弾痕）が生々しく残っています。面する大手門をくぐると、きれいな資料館があり、水戸城だけでなく、水戸藩全体の様子が映像等で展示されていて幅広い知識を得ることができました。また、福祉バスによる移動は快適そのもので、研修会にふさわしい時間を過ごすことができました。（文責：広報委員会）



大日本史の資料展示コーナー

宍戸小学校の思い出



旧陣屋
村上 凜花

たずねてみたら

No.108

宍戸小学校の思い出はたくさんあります。一年生では、不安がいっぱいでした。でも、多くの人が優しく接してくれて、初めての小学校生活も少しずつ慣れていきました。二年生では、何事にもチャレンジし、自信がついてきました。三年生では、中学年になり、勉強も難しくなってきましたが大変なこともたくさんありましたが、友達も増えて楽しく過ごすことができました。四年生では、友達とのトラブルもあったけれど、仲直りをして、さらに絆を深めることができました。五年生では、最高学年に向けて頑張り、先生への憧れが将来の夢になり希望も生まれました。そしてついに最高学年。想い出深いのはやはり宿泊学習です。二日間仲間と過ごしてみんなのいいところをたくさん見つけることができ、絆がまたさらに深まりました。

最後に一番の思い出は普段の日常生活です。みんなが笑顔で明るい六年二組が私は大好きです。人生での一度きりの小学校生活、私は幸せでした。

まちの声 むらの声

これからのIT未来高等学校



校長
津賀 宗充

令和五年四月七日、県内全域から集まった65名の新入生を迎え、IT未来高校が開校しました。今年創立46年目を迎えた友部高校が、情報科の専門高校として生まれ変わります。



生徒たちは、県内随一の環境で、プログラミングや情報デザイン等を学び、現代社会で必須の情報活用能力や社会課題を分析・解決できる能力を身に付け、デジタル社会を支えるIT人材として社会に出ていきます。



地元笠間市との連携も積極的に進めてまいりますので、残り一年となった友部高校ともども、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。



編集委員

安達正男 小川福子

羽生力 高橋武志

木内久雄（宍戸駅掲示板協力員）